

# 三里塚農民闘争を防衛し 命蜂起の質をわが原点の戦いへ!!

《三里塚農民防衛戦線》

戦う同志諸君!

三里塚による農地死守、生活防衛、軍事空港粉砕の闘いは、農民叛乱の革命的止揚へと受けつがれつつあるこの時、政府ブルジョワジー、千葉県当局、空港公団は、三里塚農民革命蜂起の庄殺を極端に着識し始めた。過去、農民階層の叛乱、蜂起、革命は何処でも歴史変革の胎動源であつた如く、三里塚農民の決起は、砂川農民、富士吉田農民、熊本蜂巣城主、富士市農民、白根漁民等の闘いと連帯のもとに、むしひしと迫る農漁民の革命への息吹きであつた。それは全国数百万農漁民に革命前衛としての自覚、責任であり、否、全国一億人民プロレタリアートに対する革命前衛への自覚、責任であつた。

しかしながら、沖縄の闘い、ヴェトナムの闘い、東南アジア、全世界での闘いが、世界人民プロレタリアートとの連帯を求めて、展開されているにもかかわらず、日本人民プロレタリアートの革命蜂起叛乱は全体の状況のなかにはかつてなかつた。この客体状況を踏まえるなら、三里塚闘争の切り開いてきた地平に一切の安住は許されないどころか、むしろ地平の高さ故に、我々は、その悲劇の責任を自己への告発として提起し、自己の存在における叛乱提起の点検としなければならない。ヴェトナム人民は、否、今日階級社会を形成してきた一切の人民プロレタリアートの叛乱は現在を生きる我々に、厳しく革命を迫っていることを真にみつめつつ、自己の原点での叛乱の契機としていかなければならない。三里塚農民の闘いは、そのように展開され、我々を告発しつつあるとき、われわれは、なお革命蜂起、叛乱をさしひかえる理由は一切ない。

68 / 69年全国学園叛乱は国家権力の強権的庄殺と、大衆自らの非前衛化によつて革命、蜂起、叛乱の契機にはいたらなかつた。今2・15友納一堀会談が強権収用を打ち出した三里塚農民叛乱にあつても、農民の三里塚永続叛乱から、革命、蜂起、叛乱として提起されつつある時期における政府ブルジョワジーのこの種の策動は、当然に予想されつつ、いわば空港建設をさしおいて、政治的、軍事的陰謀へと見事に転回させた。三里塚二月決戦は、客観的には極めて合理的な時期、理由をもたせつつも、現実には全く非合理的に展開されている。少くとも空港建設全計画の中で、第一次収用地は全くの補充物でしかない。そのことが空港建設にからむ、騒音公害、バイパス建設、新幹線建設、高速道路建設の必然性にもかかわらず、そのブル・プリントの一切は示されておらず、収用エネルギーに還元される時、第一次収用は全くの茶番劇、又は極端に政治的なものなのである。

三里塚二月決戦の政治的、軍事的陰謀は、現地の闘いを契機として徹底して粉砕されなければならない。例えば、第一次収用地の中に未登記地域を含みつつ、今回の強制収用の対象外とされるにもかかわらず、なお決戦に持ち込む政府ブルジョワジーの真のねらいは、二月段階においてさえ保証されてきた三里塚農民の革命、蜂起、叛乱の質に対する先制攻撃による庄殺である。現実には今回の収用土地の中には闘う農民の所有地は一切含まれておらず、そのための収用は第二次、三次と長期永続的に計画されている。それ故に現地農民の永年闘争の蓄積が確認されつつあり、三里塚農民自衛の闘いが革命的質を獲得し、全人民プロレタリアートの中に三里塚農民防衛の質を急速に提起させていかなければならないのである。政府ブルジョワジーは、三里塚農民闘争の、この種の質の転換を恐れつつ、又三里塚革命の全国的波及性の危機を感知しつつ、三里塚二月決戦の茶番劇が演出されてきた。

われわれは、フアンシム移行手段としての叛乱の政治的集約を決して許してはならない。三里塚永続闘争を守り抜かねばならない。その道は、三里塚革命の波及性を第二、第三の三里塚として提起してゆくことである。日学園

叛乱に対する、東大安田死守という政治的集約化を阻止し、全国学園総叛乱として提起しなしたように、三里塚決戦を決戦としてでなく、三里塚闘争を革命、蜂起、叛乱として全人民プロレタリアートの原点での叛乱を迫っていかなければならないのである。わが戦線の構築に向けた闘いと情宣に徹底した、三里塚農民叛乱の防衛を提起し、その質を止揚、解体してゆくことによつて、改めて全国総叛乱の契機となることを意図しなければならない。第一次収用をめぐる戦いが、頂点化させられてゆくとき、この闘いを革命的ににらうのは、穴の死守戦をいかに全体的遊撃戦へと展開しきるのかという課題に尽きるだろう。

われわれは、三里塚二月決戦を政治的に利用できる一切の質を有していないし、その必要はない。我々は三里塚農民の闘いを、自己の原点に持ち返る質として、一切を保証してゆくであろう。それ故に、我々は、三里塚闘争を明確に、三里塚農民・三里塚革命叛乱をいかに防衛するかの戦術問題として提起してゆきたい。一人一人の大衆の中に三里塚革命叛乱を防衛する大衆の前衛の創設を追求する過程の中に三里塚闘争の悲劇的狀況を、又は象徴的状況を相互に胎動させつつ、70年代より急激に問われてきた大衆革命主義の質を、全人民プロレタリアートに要請していかなければならないと考える。70年代階級闘争・革命の現実性は、三里塚を契機として、なお創り出し得るのか得ないのかという深刻な問の中に自らを迫ってゆかねばならない。

- 三里塚農民の死の抵抗を防衛し、三里塚革命・蜂起・叛乱を守り抜こう！
- 三里塚決起の質を自らの原点に構築し、全国総叛乱を準備しよう！
- 三里塚に結集し、三里塚で闘い、三里塚を学ぼう！

- 天神峠現闘 TEL ○四七六一二二一八二五三
- 芝山同盟本部・芝山農協 ○四七六三五一一二五一
- 事務局 北原敏治(三里塚) ○四七六三五一一六二
- 青行隊 島寛征 ○四七六三五一一〇四(三里塚)
- カンパ送り先↓柳川 茂 山武郡芝山町大里六
- 少年行動隊関係↓石井英祐 ○四七九七八一四一

山武郡芝山町菱田辺田

		鉄、																					
		成田→千葉																					
千葉→成田	快	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22			
	速	52	24	55	38	20	27	36	33	0	2	7	29	40	14	28	6	1	56	27			
急					47	33	52	58	45	52	40	50	5	7	28	50							
行																							
成田→千葉	快	50	32	48	36	10	27	3	11	27	31	3	40	4	42	50	5	24	16				
速																							
急																							
行																							
千葉→成田	快	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22			
速																							
急																							
行																							

三里塚農民防衛戦線緊急時結集場所

